

平成 26 年 7 月 17 日

中島 清晴 議長 様

NOMA行政管理講座参加報告書

事例と実習で学ぶ

「議会広報紙（誌）編集の基本と『読まれる』紙面の作り方」

～編集の基本技術を知って「読まれる」議会広報紙（誌）をつくる～

報告責任者 中瀬古初美

平成 26 年 7 月 17 日

中島 清晴 議長 様

NOMA 行政管理講座参加報告書

NOMA 行政管理講座（一般社団法人 日本経営協会主催）

事例と実習で学ぶ

「議会広報紙（誌）編集の基本と『読まれる』紙面の作り方」
～編集の基本技術を知って「読まれる議会広報紙（誌）をつくる～

日時：平成 26 年 7 月 8 日（火） 13：00～17：00
7 月 9 日（水） 9：30～16：30

場所：NOMA ホール（一般社団法人 日本経営協会専用教室）

講師：西村良平氏 日本エディタースクール講師
実践女子短期大学講師
日本農業新聞広報誌セミナー講師

参加者：松田千代 中瀬古初美

参加自治体

神戸市 姫路市 小田原市 小平市 練馬区 鶴ヶ島市 ひたちなか市 土浦市
いわき市 山形市 宮古市 大村市 長崎市 福山市 総社市 奈良市 富士宮市
多治見市 長野市 新潟市 松阪市から議会広報紙担当の議員、市職員

研修内容

7 月 8 日 13：00～17：00

- ・グループワークにて、各議会広報紙が配布され一読
「まなざし」という表記でも、まなざし・マナザシ・眼差し・目差し・眼刺し・目刺し
等、6 種類もある。いかに見出しが大事かということになる。
- ・印刷・製本に関する基礎知識のレクチャー
印刷所には刷りっぱなしの状態置いてある。（製本はしていないが）印刷所に見学に行くとよい。印刷は、すべてのページを大きな紙に裏表に印刷し、それを A4 サイズ

に折り、一度に裁断し製本する。カラー印刷は高いように思われるが、値段は大きな差はない。

- ・目次をきれいにつくる、見出しをつくるということが大事である。
- ・企画の立て方、雑誌編集のDVDをレクチャーを受けながら鑑賞する。
- ・左に読ませたいものを載せる。大事にするのは、1, 3, 5ページ。
- ・景気が悪くなると、左に広告を出すようになる。新聞は、右側に広告。左側に警察、税務署、消防など。
- ・目立つところに「見出し」をいかにもってくるか。大事である。
- ・逆ピラミッドで、一番大事なもの、伝えたいことを先に書く。大事なものから書いていく。それは、書き手にとって便利、編集者にとっては大変便利、また読み手にとっても良い。
- ・起承転結というが、「転」は、難しい。どんな事件を起こすか、ひっくり返るようなドラマチックになるようなものを先に考えて「起」を考える。
- ・言葉の統一をどう考えるか。
- ・目次は記事の一覧を示すもの、読ませたいものを表記する。大事なものを大きくして上にもってくる。
- ・キャッチフレーズで読ませる。写真で読ませる→記事への導入
- ・記事の依頼は、書く内容取材して、その中からテーマを絞り依頼した方がよい。そうすると記事も直しやすい。原稿ができる前が大事である。
- ・「～について」という表記は、意味がない・
- ・読んでもらうことが一番で、表とグラフは嫌われ者だが、図表のキャプションに知恵を絞る。
- ・発行目的や編集方針は、実例で教えることができるのか。
- ・「構想力」は大事である。組み立てをどうするのか。
- ・文字のポイント数が小さくても、ボードにすると見やすい。
- ・写真、文章をつくることは、企画づくりのいいトレーニングになる。
- ・写真撮影、選択、どのように展開するのか、どう組み立てるのか、どのような狙いでつくるか。
- ・「読まれる」紙面と「読まれない」紙面の違いは、記事と写真、「見出し」が重要である。

7月9日 9:30~16:30

- ・レイアウト作業の基本「本文」+「見出し」「写真(図表)」の配置
「NEWSWEEK」の紙面から、余白も大事であること、見出しや写真、図表の周囲には余白を置く。カラーは、文字に使用するのではなく、写真、イラストに用いる。
- ・文章の構成法は、ミスをなくす点検法、文字の校正。
- ・外に出て、実習を行った。写真撮影をしてグループで内容を考え、写真のキャプション

の作成、参加者にプレゼンテーション、よかったものに投票。

所感

21の自治体から、広報担当議員や職員の参加があったが、どこも課題は同じであると感じた。つまり、いかに住民に手に取ってもらえる、読んでもらえる紙面をつくるかであり、それに費やす時間であったり、いかに迅速に作業ができ、早くに届けられるか、考えるいい機会になった。

また、いかにタイトル・見出しが大事であるかがよくわかった。これからは、新聞・雑誌においても、そのような目線で見ること、読むことができると思う。

今後、新たに設立される広報広聴委員会（仮称）においても、この学びを生かし、市民の皆さまに、「手にとって」いただける、関心を持って「読んで」いただける紙面づくりに取り組んでいきたい。